

学生フォーミュラ大会を訪れて

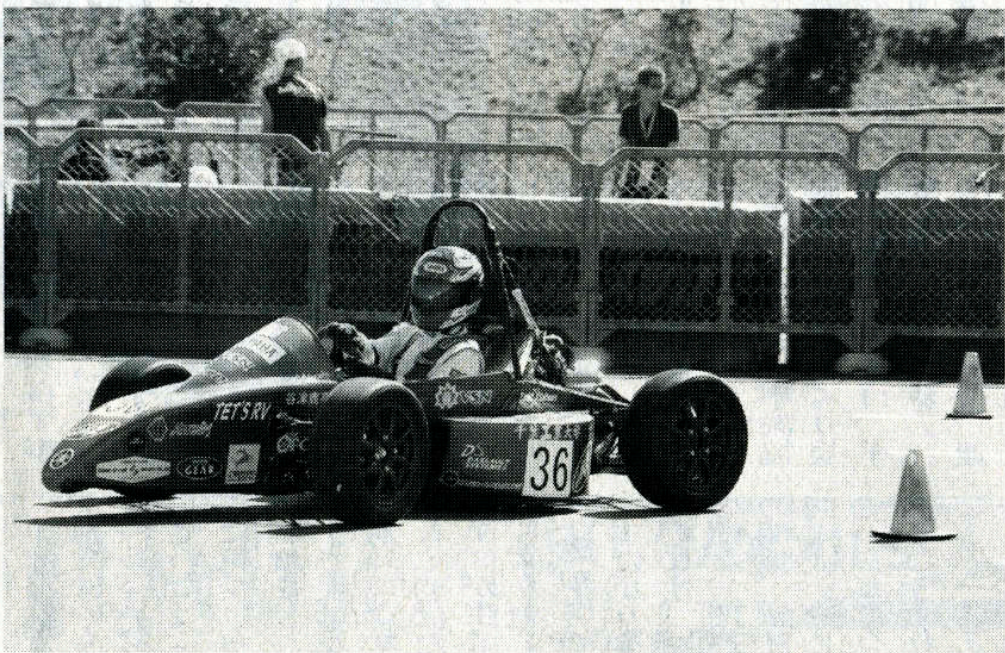
(社)自動車技術会は、学生の自主的なものづくりの総合能力を養成するとともに、将来の自動車産業を担う人材を育てるための『ものづくり育成の場』として、2003年から「全日本学生フォーミュラ大会」を主催している。5度目の開催となる今回は、9月12日から15日、静岡県袋井市のエコパ（小笠山総合運動公園）で開催。海外の4チームを含めて計61チームが参加した。

各チームは自らが作った小型レーシングカーを持ち寄って、車検をはじめ、加速性能や耐久走行といった動的競技、コスト、プレゼンテーション、設計からなる静的競技で競い合う。学生らは大会までに、資金調達からデザイン、資材加工方法の選定、実際の加工・組み立て、テスト走行など、多岐にわたる工程に携わり、さらに大会に参加するための費用捻出や車輛の輸送など、ものづくりに関わるさまざまな体験を重ねてきた。

この競技を成立させる上で、欠かせないものの1つが3D・CADだそう。「3D・CAD

があるからこそ、大学生でも実際に走るフォーミュラカーの設計をすることができると学生らは言う。ただCADによっていくらか設計が容易になったとしても、1台の車を完成させることが、並大抵の意気込みだと実現できないことは想像に難くない。

大会当日、会場には小柄ながらも本格的なフォーミュラカーがあるからこそ、大学生でも実際に走るフォーミュラカーの設計をすることができると学生らは言う。ただCADによっていくらか設計が容易になったとしても、1台の車を完成させることが、並大抵の意気込みだと実現できないことは想像に難くない。



小柄ながらも本格的なフォーミュラカーが走る